

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和2年3月23日

報告番号 乙	第338号	氏名	三浦 大介
審査員	主査	琴田 憲彦	
	副査	藤原 裕司	
	副査	三浦 裕久	
論文題名	<p>題名 Influence of preoperative serum creatinine level and intraoperative volume of contrast medium on the risk of acute kidney injury after transfemoral transcatheter aortic valveimplantation: a retrospective observational study</p> <p>雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年</p> <p>BMC Research Notes 12:484:2019, <a href="https://doi.org/10.1186/s13104-019-4527-2">https://doi.org/10.1186/s13104-019-4527-2</a></p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、大腿動脈アプローチ経カテーテル的大動脈弁移植術(TF-TAVI)後の急性腎障害(AKI)の発生に与える血清クレアチニン値(SCr)と術中の造影剤使用量(CMV)の影響について述べている。</p> <p>2014年3月から2018年3月までに佐賀大学医学部附属病院でTF-TAVIを受けた81例において、後方視的にAKI発症リスク因子の検討を行った。AKIの診断はValve Academic Research Consortium-2(VARC-2)基準に基づいて行われ、TAVI後7日目までに7例(8.6%)にAKIを認めた。SCrとCMVはAKI群で有意に高く、eGFRはAKI群で有意に低かった。CMV×SCr/BWは、AKI群で有意に高く、AUC0.914、カットオフ値2.99であった。これまでの研究ではTAVI後のAKIのリスク因子としてCMVに定まった見解がなかったが、本研究ではAKIの診断基準にVARC-2を用いたことによって、TF-TAVIにおいてCMVがAKIのリスク因子となることを明らかにし、CMV×SCr/BWを2.99未満に抑えることでTF-TAVI術後のAKI発症を抑制できる可能性が示された。これらの知見は臨床的に意義があり、今後の研究につながるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>術後の急性腎障害に関し、種々質問を行い、特に造影剤使用量とAKI発症について現在までの知見と本研究との差異について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。本研究の限界についても適切に認識していた。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	令和2年3月23日	最終試験日	令和2年3月23日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 3 月 1 6 日

報告番号 乙	第 339 号	氏 名	久 田 祥 雄
審 査 員	主 査	小田 康 友	
	副 査	江 村 正	
	副 査	尾崎 岩 太	
論文題名	題 名 Mobile medical services and experiential learning in community-based clinical clerkships enhancing medical students' positive perceptions of community healthcare 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Rural Medicine 2019; 14(2): 216-221		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、医学生を対象に行われている地域医療実習において、どのような体験が地域志向性を高めるかを調査している。</p> <p>2015-17 年に佐賀大学医学部関連の地域病院・診療所で臨床実習を行った 6 年次医学生を対象に、医学生の地域志向性（地域医療のやりがいと自信）を質問紙調査（VAS スケール）で実施し、実習前後で比較したところ有意な向上が見られた。さらに地域医療実習での様々な体験学習活動 13 項目のうち、「巡回診療」の体験が地域志向性の向上と有意な関連があることを見出している。一方で学生の性別（女性）や介護施設体験は負の相関が見られた。巡回診療は地域集会所等で診療を行うもので、医療過疎地における診療の実情や問題を体験的に学んだことが、医学生の地域志向性を高めたと考察している。</p> <p>以上の成績は、医療の偏在解消のための卒前教育のあり方について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>地域医療学及び医学教育に関し種々質問を行い、特に質問紙票を用いた心理測定について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 3 月 1 6 日	最終試験日	令和 2 年 3 月 1 6 日




## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 4 月 13 日

報告番号 乙	第340号	氏名	伊藤 寛
審査員	主査	副島英伸	
	副査	吉田裕樹	
	副査	相島慎一	
論文題名	<p>題名 Bi-directional regulation between NDRG1 and GSK3<math>\beta</math> controls tumor growth and is targeted by differentiation inducing factor-1 in glioblastoma</p> <p>雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Cancer Research. Epub ahead of print. 2019; DOI: 10.1158/0008-5472.CAN-19-0438</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、膠芽腫における NDRG1 が関わる細胞増殖分子経路の解明、および NDRG1 を標的とした新たな治療創出について述べている。</p> <p>患者腫瘍の NDRG1 免疫染色は、NDRG1 発現は患者予後に正に相関した。膠芽腫細胞株を用いて NDRG1 を knockdown および over expression させ、増殖、細胞周期、シグナル伝達分子の活性をフローサイトメトリ、イムノブロットで解析した。その結果、NDRG1 抑制は細胞増殖を亢進し、GSK3<math>\beta</math>、AKT/S6 活性を促進すること、その効果は GSK3<math>\beta</math> 阻害剤で相殺されることがわかった。また、NDRG1 過剰発現は GSK3<math>\beta</math>、AKT/S6 活性を低下させ、細胞周期を G<sub>0/1</sub> で停止させた。さらに、NDRG1 の C 末端は GSK3<math>\beta</math> によりリン酸化され、リン酸化によって NDRG1 の安定性が低下することがわかった。次いで、differentiation inducing factor-1 (DIF-1) の NDRG1 誘導効果および抗腫瘍効果を膠芽腫移植マウスで検証したところ、DIF-1 は NDRG1 発現を誘導し、血液脳関門を超えて同所移植腫瘍の増殖を抑制した。</p> <p>以上の結果は、膠芽腫細胞における NDRG1 の増殖抑制機構を明らかにし、DIF-1 を用いた NDRG1 標的治療の有効性を示唆するもので、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>腫瘍の分子生物学に関し種々質問を行い、特にシグナル伝達と細胞増殖について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 4 月 13 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
			令和 2 年 4 月 13 日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 4 月 23 日

報告番号 乙	第 341 号	氏 名	千 原 敦 子
審 査 員	主 査	安西 慶三	
	副 査	戸田 修二	
	副 査	尾崎 岩太	
論文題名	<p>題 名 Differences in lipid metabolism between anagliptin and sitagliptin in patients with type 2 diabetes on statin therapy: a secondary analysis of the REASON trial</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Cardiovascular Diabetology. 18(1):158, 2019</p>		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は, スタチン投与下の 2 型糖尿病患者における DPP-4 阻害薬アナグリプチンの LDL-C 低下作用機序を解明することを目的とした論文である。</p> <p>本研究グループはアナグリプチンとシタグリプチンの LDL 低下作用を比較した REASON 研究においてアナグリプチンに有意な LDL-C 低下作用があることを報告していた。しかしその詳細な機序や、他の脂質代謝マーカーとの関連は明らかではなかった。今回、対象は、スタチン投与下にて LDL-C 管理目標値が未達成の心血管疾患ハイリスク 2 型糖尿病患者 353 例(68 歳±10 歳、LDL-C 111±22mg/dL)をアナグリプチン投与群とシタグリプチン投与群に割付け後、登録時と投与 52 週後の脂質代謝マーカーの変化量を 2 群間で比較した。コレステロール吸収マーカーの変化量に 2 群間で有意な差は認められなかった一方で、コレステロール合成マーカーであるラトステロールはシタグリプチン投与群では有意に上昇し、アナグリプチン群では有意な変化が認められなかった。</p> <p>以上の成績は、アナグリプチンによる LDL-C 低下作用の機序として、肝におけるコレステロール合成抑制が関与している可能性について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>脂質代謝学に関し、種々質問を行い、特に薬剤と脂質代謝について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 4 月 23 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
			令和 2 年 4 月 23 日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 7 月 8 日

報告番号 乙	第 342 号	氏 名	國 武 裕
審 査 員	主 査	原英夫	原 英 夫
	副 査	田中恵太郎	田中恵太郎
	副 査	坂本麻衣子	坂本麻衣子
論文題名	題 名 Serum Oxytocin Levels and Logical Memory in Older People in Rural Japan 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Geriatric Psychiatry and Neurology, 2020 doi: 10.1177/0891988720915526. [Epub ahead of print]		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、日本の農村部在住の高齢者（65 歳以上）の血清オキシトシンと論理記憶との関連を調査した結果について述べている。</p> <p>これによると、参加者は、認知症の有病率調査のためのスクリーニング検査を受け、WMSR 論理記憶 II 遅延想起（LM II-DR）を使用して論理記憶を評価している。血清オキシトシン値は酵素免疫測定法を用いて測定した。その結果、日本の農村部在住者の血清オキシトシン値は男性（<math>0.05 \pm 0.036</math> ng/mL）よりも女性（<math>0.12 \pm 0.127</math> ng/mL）が有意に高かった。（<math>P &lt; 0.001</math>）また、回帰分析では血清オキシトシン値と性別（女性）（<math>P &lt; 0.001</math>）と WMSR 論理記憶 II 遅延想起との間に正の相関を示した。</p> <p>以上の結果は、日本の農村部在住の高齢女性の血清オキシトシン値が男性よりも高いことを明らかにし、高齢女性のオキシトシン値と論理記憶の間には正の相関がある可能性を示唆する事を明らかにしており、認知機能とオキシトシンの関連について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>認知症に関し、種々質問を行い、特に認知症と下垂体ホルモンについて詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 7 月 8 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
			令和 2 年 7 月 8 日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和2年8月31日

報告番号 乙	第343号	氏名	前田和政
審査員	主査	倉岡晃夫	
	副査	糸川奈緒美	
	副査	浅見豊子	
論文題名	題名 Risk Factors of Neuropathic Pain after Total Hip Arthroplasty 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Hip Pelvis 30(4): 226-232, 2018		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、神経障害性疼痛（NP）に対する人工股関節全置換術（THA）の効果を検証したものである。</p> <p>これによると、本学附属病院にて2007年4月～12月にTHAを受け、かつ術前後のPainDETECTアンケート（PD）で回答を得た163股関節（患者161人）を対象とし、日本整形外科学会（JOA）の股関節スコアで術前後の臨床評価を比較した。</p> <p>その結果、THA前には24.5%の患者がNPと診断され、PDスコアとJOAスコアの間には有意な相関を認めた。一方、THAの2ヶ月後には5.5%がNPと診断されたが、THA後1週間の時点におけるPDスコアとの相関は認められず、術前のPDスコアとの間に有意な相関が認められた。</p> <p>以上の結果は、THAが変形性股関節症患者の侵害受容性疼痛のみならずNPの緩和に有用であり、また、術前の疼痛がTHA後のNPの危険因子であることから、術前の疼痛抑制が術後のNP減少に効果的であることを示唆し、学術的に意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>変形性股関節症に合併する神経障害性疼痛に関し、種々質問を行い、特に術後遷延性疼痛等との関係や疼痛管理の実際について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、その他の専門的学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、研究を遂行する能力とともに、外国語文献を自由に利用して欧文論文を作成する能力も充分であることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	不合格	学力の確認の結果
			<input checked="" type="radio"/> 合格
			不合格
論文審査日	令和2年7月31日	最終試験日	令和2年7月31日

令和 2 年 8 月 1 2 日

報告番号 乙	第344号	氏名	溝上 泰一朗
審査員	主査	原 英夫	原、英夫
	副査	阪本雄一郎	阪本雄一郎
	副査	増岡 淳	増岡 淳
論文題名	題名 Aspiration catheter reach to thrombus (ART) sign in combined technique for mechanical thrombectomy: Impact for first-pass complete reperfusion. 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, Vol 28, No.10, 104301, 2019.		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、急性期血栓回収の Aspiration catheter(AC)と Stent Retriever (SR)を併用する combined technique において、初回完全再開通(first-pass complete reperfusion: FPR)を得るための要因が不明であるため、著者等はデバイス抜去前に吸引カテーテルが血栓に到達し血栓を捕獲することが FPR に重要であると考えた。吸引ポンプの血流停止と吸引カテーテル先端のステントの形状変化により判断し、AC が血栓に到達した徴候を ART (Aspiration catheter to Thrombus) sign と定義した。この論文では combined technique における ART sign の影響を明らかにした。その結果、ARTs 群と Non-ARTs 群を比較すると、初回手技の完全再開通(modified thrombolysis in cerebral infarction:mTICI3)は、ARTs 群で高率に得られた。</p> <p>以上の結果は、AC が血栓に到達することができれば、SR と併用する事で血栓を一塊で回収することができ、FPR に寄与したと考えられた。急性期血栓回収の combined technique において初回完全再開通について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>脳血栓症や塞栓症に関し、種々質問を行い、急性期血栓回収の手技について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 8 月 1 2 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
			令和 2 年 8 月 1 2 日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 8 月 1 9 日

報告番号 乙	第 345 号	氏 名	立 石 洋
審 査 員	主 査	原英夫	原 英 夫
	副 査	阿部竜也	阿 部 竜 也
	副 査	安田浩樹	安 田 浩 樹
論文題名	<p>題 名 Changes in interleukin-1 beta induced by rTMS are significantly Correlated with partial improvement of cognitive dysfunction in treatment-resistant depression: a pilot study</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年</p> <p>Psychiatry Research 289, 2020. <a href="https://doi.org/10.1016/j.psychres.2020.112995">https://doi.org/10.1016/j.psychres.2020.112995</a></p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、うつ病は認知機能障害と密接な関係があり、反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) は治療抵抗性うつ病 (TRD) の認知機能障害を改善する非侵襲的な治療法である。また、うつ病の病態生理は神経炎症と関連していると言われている。今回、TRDにおいてrTMS治療前後で認知機能の変化と血清炎症性サイトカインの変化との間に関連があるかどうかを調べた。</p> <p>TRD患者11人を対象とし、当科入院下で10Hzの刺激頻度でrTMSを6週間行った。rTMS治療前後で認知機能、抑うつ症状、炎症性サイトカインの血清濃度IL-1<math>\beta</math>、IL-6、tumor necrosis factor (TNF-<math>\alpha</math>) を測定した。rTMS治療により治療前後で抑うつ症状及び認知機能障害の一部が有意に改善した。また、rTMS治療前後でIL-1<math>\beta</math>、IL-6、TNF-<math>\alpha</math>単独では有意な変化を認めなかったが、一部の認知機能障害の改善とIL-1<math>\beta</math>の低下が有意に相関した。</p> <p>以上の結果は、反復経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病におけるIL-1<math>\beta</math>の低下は認知機能障害の部分的な改善と有意に相関する可能性が示唆され、治療抵抗性うつ病の病態に新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>うつ病の病態とその治療法など種々質問を行い、特に脳内の炎症性サイトカインの病態などについて詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同程度以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 8 月 1 9 日	最終試験日	<input checked="" type="radio"/> 合格
			<input type="radio"/> 不合格
			令和 2 年 8 月 1 9 日



## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 2 年 10 月 7 日

報告番号 乙	第 346 号	氏 名	鈴木 耕平
審 査 員	主 査	阿部 貴也	
	副 査	野中 孝一	
	副 査	入江 裕之	
論文題名	題名 Total small vessel disease score and cerebro-cardiovascular events in healthy adults: The Kashima scan study 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Journal of Stroke, Feb 19, 2020: <a href="https://doi.org/10.1177/1747493020908144">https://doi.org/10.1177/1747493020908144</a>		
論文審査 結果の要旨	<p>頭部MRIのTotal small vessel disease(SVD) scoreは脳の微小血管障害を包括的に評価するとされていることから、本研究では健常成人においてベースラインのTotal SVD scoreと将来の脳心血管イベントの関連性を検討した。脳ドッグを受診した健常成人1349名(平均年齢57.7歳, 男性47%)を対象とした前向き研究である。頭部MRIでlacunae, cerebral microbleeds, white matter changes, basal ganglia perivascular spacesから, Total SVD score (0-4)を評価した。参加者を3群(Total SVD score 0,1,2-4)に分け, 脳心血管イベントのリスクを群間比較したところ, 平均6.7年の観察期間に35例で脳心血管イベントを生じた。COX回帰分析ではTotal SVD scoreが脳心血管イベントに関連することが示された(HR 2.17; 95%CI, 1.36-3.46; p=0.001)。また, Total SVD scoreが脳血管障害だけでなく, その他の心血管イベントの予測因子となった。これは全身の血管の内皮障害や炎症を反映している可能性があり, 健常成人におけるTotal SVD scoreは将来の脳心血管イベントの有効な予測因子であることを報告した。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>脳卒中学に関し, 種々質問を行い, 特に脳心血管系について詳しい説明を求めたが, いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また, 専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し, かつ, 研究指導する能力も十分であることを確認した。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが, 外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって, 審査員合議のうえ, 本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和 2 年 10 月 7 日	最終試験日	令和 2 年 10 月 7 日

令和3年1月6日

報告番号 乙	第347号	氏名	江橋 諒
審査員	主査(自署)	江橋 諒	
	副査(自署)	水口 昌伸	
	副査(自署)	中園 貴孝	
論文題名	題名 Significance of simulated conventional images on dual energy CT after endovascular treatment for ischemic stroke 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Neurointerventional Surgery, 11(9), 898-902, 2019		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、急性期脳梗塞に対して血栓回収術を施行した52例を対象にしたもので、遅発性出血や転帰不良と関連するといわれているDual Energy CTで識別された造影剤漏出を定量的指標として明らかにすることを目的とした後方視的研究である。</p> <p>結果は、治療後の梗塞巣内の最大Lesion Hounsfield units(HU)値は術後出血群で有意に高かった(<math>p &lt; 0.0001</math>)。また、Lesion HUは術翌日に空間占拠性病変を有する新規出血あるいは出血増大を認めたものをdelayed parenchymal hemorrhage (PH)と定義するとこのdelayed PHにおいても有意に高かった(<math>p = 0.0001</math>)。</p> <p>術直後のLesion HUは術直後出血や遅発性出血、出血増大に対して高い感度(cut off 80HU, 78HUでそれぞれ100%, 100%)であった。</p> <p>本論文は血栓回収術後の血圧管理や抗血栓療法を開始する有用な指標に関しよって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和3年1月6日	最終試験日	令和3年1月6日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和3年1月5日

報告番号 乙	第348号	氏名	山下友子
審査員	主査(自署)	野上 寿一	
	副査(自署)	藤原 啓司	
	副査(自署)	津田 寛行	
論文題名	<p>題名 Early prophylaxis of central venous catheter-related thrombosis using 1% chlorhexidine gluconate and chlorhexidine-gel-impregnated dressings: a retrospective cohort study</p> <p>雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Scientific Reports, 10, 15952 (doi: 10.1038/s41598-020-72709-w), 2020</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本研究は、1%クロルヘキシジンアルコールとクロルヘキシジンドレッシング(CGCD)を使用する事で、カテーテル関連血栓症(catheter related thrombosis, CRT)が減少するかを検討した。48時間以上、中心静脈カテーテルによる治療が必要であった患者を対象とし、CGCDを使用した患者群と10%ポピドンヨードと通常の透明ドレッシング(PITD)を使用した患者群で、超音波検査で判定したCRTの発症率を比較した。CRTは7日以内に発生したearly-CRTと8~14日に発生したlate-CRTに分類した。early-CRT及びlate-CRTと、皮膚消毒薬とドレッシング材の組み合わせの関係について解析した結果、CGCD群では、PITD群と比較して、early-CRTの発症率が有意に低下した。late-CRTについては、2群間でCRTの発症率に差はなかった。CGCDがearly-CRTを減少させた理由は、クロルヘキシジンの抗菌効果と抗血栓効果によると推測された。重症患者において、CGCDを使用する事で、7日以内のカテーテル関連血栓症発症リスクが低下する可能性が示した本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	令和3年1月5日	最終試験日	令和3年1月5日

報告番号 乙	第349号	氏名	兒玉和久
審査員	主査(自署)	杉岡 隆	
	副査(自署)	香川 和伸	
	副査(自署)	齊岡 憲夫	
論文題名	題名 Construction of a Heart Failure Database Collating Administrative Claims Data and Electronic Medical Record Data to Evaluate Risk Factors for In-Hospital Death and Prolonged Hospitalization 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Circulation Reports, 1, 582-592, 2019		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、心不全入院患者の臨床研究に際して DPC データと電子カルテデータを突合させたデータベースを作成し、その有用性を検討したものである。</p> <p>国内急性期3病院における4年間の心不全入院患者に関する DPC および電子カルテデータを突合させ、データベースを作成した。その中から循環器内科や疫学・統計学の各専門家の検討を通じてコホートを設定、適用基準を満たした 2750 例について、入院初期に得られるデータの中から、長期入院および院内死亡と関連するものを探索した。その結果、院内死亡と関連するものが高齢、入院時の NYHA クラス、低アルブミン、低ナトリウム、およびクレアチニン、CRP の高値であった。また長期入院と関連するものは、入院時の NYHA クラス、Barthel index、低アルブミン、および BNP、LDH、CRP の高値であった。これらの因子は、過去の研究結果と概ね一致していた。</p> <p>以上の結果は、DPC と電子カルテのデータを突合させることによって、心不全入院患者の臨床研究に有用なデータベースを構築できることを示しており、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>研究内容に関し、種々質問を行い、特に研究の手法や意義について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	学力の確認の結果	合格 不合格
論文審査日	令和3年1月28日	最終試験日	令和3年1月28日

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 3 年 1 月 14 日

報告番号 乙	第 350 号	氏 名	徳 島 圭 宜		
審 査 員	主 査 (自署)	高橋 宏和			
	副 査 (自署)	安西 慶三			
	副 査 (自署)	尾崎 岩太			
論文題名	<p>題 名 Management of hepatitis B surface antigen and hepatitis C antibody-positive patients by departments not specializing in hepatology at a suburban university hospital in Japan: A single-center observational study</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年</p> <p>International Journal of General Medicine, 13, 743-750, 2020</p>				
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、ウイルス性肝炎診療に関わる助成制度や治療薬の発展が、非肝臓内科の診療行動に及ぼした影響を明らかにする目的で、2015 年に自施設の非肝臓内科で HBs 抗原陽性あるいは HCV 抗体中力価以上が判明した患者を後ろ向きに調査し、肝臓内科への紹介状況を検討し、2010 年に行われた同施設患者を対象とした先行研究結果と比較した。HBs 抗原陽性者は 82 例、紹介率は 35.4%であり、2010 年 (先行文献) の紹介率 20.6%より高かった。多変量解析では内科、血小板数、<math>\gamma</math>-GTP が紹介群で有意に高かった。HCV 抗体中力価以上の症例は 279 例、紹介率は 11.8%であり、2010 年 (先行文献) の紹介率 18.7%より低かった。多変量解析では測定診療科が内科である割合が紹介群で有意に高かった。考察において、HBs 抗原陽性者の紹介率の改善には、ガイドラインの発行によって de novo 肝炎が認知されたことが、HCV 抗体中力価以上の患者の紹介率の減少には、治療経験者の増加と最新の治療の副作用と治療適応に関する知識が非肝臓内科に浸透していないことが影響している可能性を指摘している。今後、非肝臓内科医、特に非内科医の紹介率を向上させるために、アラートシステムの導入などの必要性が述べられている。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。肝臓学、統計学に関し、種々質問を行い、特に研究デザインと結果解釈について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。論文中の Table 1 に数値の齟齬を認めたため、ジャーナルへの訂正を依頼するように指導し、訂正依頼はジャーナルから受付られた。よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	不合格	学力の確認の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	不合格
論文審査日	令和 3 年 1 月 12 日		最終試験日	令和 3 年 1 月 14 日	

## 学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 3 年 2 月 2 日

報告番号 乙	第 351 号	氏 名	山 田 康 貴		
審 査 員	主 査 (自署) 伊 藤 有 一				
	副 査 (自署) 蒲 原 啓 司				
	副 査 (自署) 米 岡 行 洋				
論文題名	題 名 Predictors of short-term thrombocytopenia after transcatheter aortic valve implantation: a retrospective study at a single Japanese center 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 BMC Research Notes, 13, 2020				
論文審査 結果の要旨	経カテーテル的大動脈弁留置術 ( Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI) 後の血小板減少は、予後を予測するうえで重要な因子といわ れている。しかし、術後血小板減少をきたす因子については十分な知見が得られて いない。本研究は TAVI 術後の血小板減少に関連する因子について検討した。 2014 年 3 月から 2019 年 8 月までに当院で行われた TF-TAVI131 例を対象とし た。術前の 50%以上の血小板減少 (drop platelet count: DPC) をきたした血 小板減少群 (DP 群) と 50%未満の非減少群 (NDP 群) において患者背景、術中所見、 術後経過から関連する因子を調査した。 DP 群が 74 例 (56%) で NDP 群が 57 例 (44%) であった。DPC $\geq$ 50%に寄与する因 子は、単変量解析では高齢、低 BMI、バルーン拡張型弁 (ballon-expandable valve: BEV) の使用症例であった。多変量解析では DPC $\geq$ 50%に寄与する因子は低 BMI (オ ッズ比: 0.884、95%信頼区間: 0.785-0.997、 $p=0.039$ ) と BEV の使用 (オッズ比: 3.014、95%信頼区間: 1.003-9.056、 $p=0.045$ ) であった。 本研究の結果により低 BMI と BEV の使用が TAVI 後の血小板減少のリスクであ る可能性が示唆された。 よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。				
学力の確認の 結果の要旨	学力の確認は口頭試問により行った。種々質問を行い、いずれについても満足す べき答弁を得た。 よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力 があるものと判定した。				
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	学力の確認の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	令和 3 年 2 月 2 日		学力の確認日	令和 3 年 2 月 2 日	